

第三者研究会での意見の概要及び意見に対する対応状況

1. 第三者研究会の名称 交通の健康学的影響に関する研究会（メンバー及び開催状況別紙）	
2. 第三者研究会での意見の概要及び対応	
意見の概要	意見に対する対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果のまとめとして「適正なストレス」と記述すると、「なぜストレスを調査しているのか」との議論になりかねないので、むしろ調査の趣旨・背景として記述すべき。本調査でのストレスとは適度なストレスを超える「余分なストレス」と整理すれば分かりやすい。 ・ 世界的にもまれな調査と思われる。今後の調査では、「通勤がエクササイズになる」などの視点も興味深いと思う。 ・ 本調査の通勤とは朝の出勤を対象としていることから、通勤ストレスによって注意力等が低下しているとなれば、企業にとって大きな損失である。その点からも認知機能試験を実施する意義があると考えられる。 ・ 40～50人程度の被験者数は中途半端であり、データベースを大きくするか、逆に少数の被験者に厳選するかどちらかにした方が良いのではないか。本調査も3年目であり、今後は政策的に何を提言するのかという点からターゲットを絞り込むべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書の冒頭において、「適度なストレスは不可欠であるが、過度なストレスは好ましいものではない」旨の記述を追加。 ・ 今後の調査における方向性の一つとして検討していきたい。 ・ 認知機能テスト導入の意義について、企業の生産活動・効率の観点を追加。 ・ 測定機器や被験者の確保における制約もあるが、今後の調査実施において留意していきたい。